

幸せの瞬間

誰もいなくなった部屋で
孤独の真似事をする
暗く薄い光に
微かに心が震え
ぬっと黒い陰が現れて
自分の歪んだ世界を作り出す
とどめのない複雑怪奇な心の絵模様から
逃げ出す方法を知らないようにそれはどンドン膨らんでいく
道がない
そこから逃げ出す道がない
自分の思考に追いつめられて
どうしようもないそのとき
射した十分な光
これだけでいいんだ
誰かが勢いよく
部屋を開けてしゃべりだす
気がつけばもう
そこには不安も恐怖も何もない
あるのは日常
見慣れた色をした
私が居る
ただ私らしさを失いながら……
ものを書きたい時だけ
するどく観念を冒していく
時々稲妻のような瞬間だけは
自分を他人から放っておきたい